令和5年度 真岡女子高等学校 自己評価

1 重点目標に対する自己評価

A：十分に達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

本年度の重点目標	(1) 学習意欲の向上と主体的に考え行動できる力の育成 (2) 心身の鍛錬と豊かな人間性の涵養 (3) 学びの保障と地域や保護者の信頼に応える努力の継続		
評価項目（具体的な取組等）	関係部	参考資料	評価
ア 学習指導の改善及び充実	学習指導部	授業に関する意識調査 学習実態調査 学校評価アンケート	B
ICTの活用場面が進んだ面がみられたが、全体として少なく、指導上の工夫も途上にある。			
イ 自主学習の定着と自律した学習態度の育成	学習指導部	学習実態調査 学校評価アンケート	B
調査結果から学習時間の全体的な低下、特に平日1時間未満層がやや増えていることから、まだ指導の余地がある。			
ウ 一貫した進路指導体制による進路実現の推進	進路指導部	学校評価アンケート	B
進路目標に対しての授業や指導、情報提供について、9割の生徒がプラス評価であった。一方で、保護者への情報提供が課題である。			
エ 部活動の活性化と学校行事等の特別活動の充実	特別活動部	学校評価アンケート	A
部活動については例年同様に多くの部が高い実績を残した。学校行事については、生徒が主体となるべきところでは生徒がよく活動できていた。			
オ 品位ある生活態度の形成と生活習慣の確立	生徒指導部	学校評価アンケート	B
ロッカーの整理整頓、リボンの着用など、徹底できないことがあったが、教材が多く、収納スペースが不足している面もある。			
カ 見方、考え方を養う活動と読書活動の推進	学習指導部	学校評価アンケート	B
平均読書時間は少ないが図書館活動は活発であり、各教科での資料の読み取り力向上の取り組みは工夫がみられつつある。			
キ 生徒の安全確保を第一とした教育活動の計画運営	健康指導部 教務部	学校評価アンケート	B
冷暖房に関する健康管理について、アンケートでの改善要望が多いが、学校としての対応には限界がある。学校祭などでは、生徒が主体的に健康管理の注意喚起をしていたことはよかった。			
ク 将来構想に基づく創意工夫ある取組	ワーキンググループ 教務部	/	A
ワーキンググループを定期的で開催し、本校の現状分析を進めながらスクールミッション等の検討を進めることができた。			
ケ いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取組み	生徒指導部	いじめアンケート 学校評価アンケート	A
計画通りいじめアンケートを実施している。学校評価アンケートにおけるマイナス評価がゼロになるように、引き続ききめ細やかな対応に努めたい。			

2 学校評価アンケート集計結果について

11月に、生徒・保護者による学校評価アンケートを実施した。

- ・本校の教育全体については、学校の雰囲気に関する質問で生徒、保護者ともに約9割の肯定的評価を得ている。ホームページや学年通信による情報発信について、わずかだが肯定的回答が増え、改善傾向にある。
- ・進路および学習指導関係では、特に生徒の回答で全体的に肯定的回答が多い。ICT機器の活用に関しては、昨年度大きく改善が見られたが、今年度も生徒の肯定的意見は増加しており、教員の活用が広まっていることを示していると言える。
- ・校則に関する質問に対し、否定的回答が増加している。「私は服装等に関する校則を守っている」という問いに対し、「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」を合わせて4.1%（昨年度0.4%）であった。
- ・「いじめやその他のことについて生徒の相談に適切に応じている」という質問に対し、今年度も肯定的回答が多数であり、否定的回答が減少している。
- ・自由記述においては、昨年度に引き続きエアコンなど冷暖房に関する要望や意見が多かった。特に生徒からは夏場のエアコン使用に関する意見が大多数である。保護者からは学習指導に関する意見がいくつか寄せられた。また、教職員に対しての温かい言葉をいただいた反面、真摯に受け止めるべき厳しいご意見もいただいている。

3 学校関係者評価について

5名の学校関係者評価委員より、本校の自己評価（重点目標及び各部の目標）について意見をいただいた。

- ・（学習指導部）一人一人の生徒に応じた個別最適な学び、学習指導の充実を図ること、家庭学習時間1時間未満の生徒に対し、学習の習慣化が必要である。
- ・（生徒指導部）校則や社会のルールを遵守しないというアンケート結果が増える傾向にあるのは心配であり、そのような空気を払拭することを望む。
- ・（特別活動部）部活動の項目に対し、PTAだよりを見ると、十二分に成果は上がっていると思う。
- ・（健康指導部）清掃は行き届いているように見受けられる。

その他たくさんのご意見をいただいているが、全体的に学校の取り組みと評価に対し肯定的であり、概ね自己評価は適正であると認めていただいたと言える。

4 次年度へ向けて

今年度の重点目標の中で、学習指導の改善と自主学習の定着などについては課題が多い。多様な生徒の進路希望を叶えるために、ICTの活用も含め、本校で可能な個別最適な学びの実現へ向けた検討を進める必要がある。また、本年度はスクールミッションの検討を通して将来構想について考える機会があり、時代とともに変わる社会や生徒の要望に対応するための取り組みの必要性も課題として見えている。次年度は様々な意見に耳を傾けながら、全職員が一枚岩となってより良い学校づくりを進めていきたい。